

招待席

## 与謝野 鐵幹

よさの てっかん 詩人 1873.2.26 - 1935.3.26 京都  
府に生まれる。 詩歌集「烏と雨」大正四年(1915)刊に  
収録の掲載作は、明治四十四年(1911)の大逆事件に絞首刑  
された大石誠之助を素材の痛切な諷刺詩で作、妻与謝野晶  
子に「君死にたまふことなかれ」の有ったのを想起させる。

## 誠之助の死

大石誠之助は死にました、  
いい気味な、  
機械に挟まれて死にました。  
人の名前に誠之助は沢山ある、  
然し、然し、  
わたしの友達の誠之助は唯一人。  
わたしはもうその誠之助に逢はれない、  
なんの、構ふもんか、  
機械に挟まれて死ぬやうな、  
馬鹿な、大馬鹿な、わたしの一人の友達の誠之助。

それでも誠之助は死にました、  
おお、死にました。

日本人で無かつた誠之助、  
立派な気ちがひの誠之助、  
有ることか、無いことか、  
神様を最初に無視した誠之助、  
大逆無道の誠之助。

ほんにまあ、皆さん、いい気味な、

その誠之助は死にました。

誠之助と誠之助の一味が死んだので、  
忠良な日本人は之から気楽に寝られます。  
おめでたう。